

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	一般廃棄物処理における住民の満足と協力：ライフステージに着目したアプローチ
Title(English)	
著者(和文)	小島英子
Author(English)	Eiko Kojima
出典(和文)	学位:博士（学術）, 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9671号, 授与年月日:2014年9月25日, 学位の種別:課程博士, 審査員:阿部 直也,中崎 清彦,花岡 伸也,村山 武彦,西條 美紀
Citation(English)	Degree:, Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9671号, Conferred date:2014/9/25, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

論文審査の要旨及び審査員

(2000字程度)

報告番号	乙 第 号	学位申請者	小島 英子	
論文審査員	氏 名	職 名	氏 名	職 名
	主査 阿部 直也	准教授	村山 武彦	教授
	中崎 清彦	教授		
	花岡 伸也	准教授		
	西條 美紀	教授		

本論は、「一般廃棄物処理における住民の満足と協力：ライフステージに着目したアプローチ」と題し、全9章で構成されている。

第1章「序論」では、住民の一般廃棄物処理の恩恵を受ける立場とその仕組みが機能するために協力する立場の両面に着目し、本研究の背景を整理した上で、研究目的と意義について述べている。

第2章「既往文献の整理」では、既存の学術研究をレビューし、本研究の特色と意義を明確にした。まず、「満足」と「協力」の規定因に関する既往研究を整理している。次に、公共事業に対する住民の意識や行動を理解する手法として、ソーシャル・マーケティングとセグメンテーションについて述べている。さらに、住民のセグメンテーション指標を検討する上で参考になる生涯発達心理学の研究成果について触れ、最後にこれらの既往研究を踏まえ、本研究の特色と意義について述べている。

第3章「対象地域とアンケート調査概要」では、研究対象とする川崎市の概況と一般廃棄物処理の状況を整理した上で、研究対象地域としての特性について検討した。また、第4、5、7章で共通して分析に用いるアンケート調査の概要を説明し、ライフステージ別に基本属性や一般廃棄物処理に対する「満足」と「協力」の傾向を概観している。

第4章「一般廃棄物処理に対する満足と協力の規定因モデル分析」では、既往研究に基づき一般廃棄物処理に対する「満足」と「協力」の規定因の仮説モデルをそれぞれ構築し、アンケート調査結果を用いて共分散構造分析により検証している。その結果、一般廃棄物処理の「満足」に対する「期待」「知覚品質」「知覚価値」からなる規定因モデルと、「協力」に対する「関心」「知識」「態度」「情報取得行動」からなる規定因モデルの存在、そして両モデルの間に相互関係があることを明らかにしている。

第5章「ごみ問題に対する関心の変化」では、前章において「満足」と「協力」の両方に影響することが明らかになった「関心」について、過去から現在に至るごみへの「関心」の変化の理由をテキストマニングと多重コレスpondens分析により解析し、結婚、育児、就業、退職、転居などのライフイベントは「関心」を高める傾向があることを明らかにしている。

第6章「一般廃棄物処理に対するニーズ・選好：グループ・インタビュー調査結果」では、既往研究で「満足」の規定因の「期待」に影響するとされている「ニーズ」「選好」について、ライフステージとの関係を掘り下げている。具体的には、ライフステージ別にグループ・インタビュー調査を実施した結果として、例えば、若年独身者は利便性を重視するのに対して、高年層では環境も重視するなど、ライフステージ別に特徴が存在することを明らかにしている。

第7章「一般廃棄物処理に対する選好」では、第6章のグループ・インタビュー調査結果を踏まえ、住民の一般廃棄物処理に対する「選好」の階層構造を構築し、AHP（階層化意思決定法）を用いて、ライフステージ別の一般廃棄物処理に対する「選好」の特徴を解明している。

第8章「ライフステージ別分析と施策提案」では、第3章から第7章までの結果から、ライフステージ別に、基本属性や「満足」「協力」「関心」「ニーズ」「選好」の特徴を整理している。その結果を受け、ライフステージ別に一般廃棄物処理施策を検討し、ライフステージ・セグメンテーションの有効性について考察している。

第9章「結論」では、第一に、一般廃棄物処理の「満足」に対する規定因モデルと、「協力」に対する規定因モデルの存在と両モデルの間の相互関係をまとめている。第二に、住民のごみへの「関心」はライフステージの変化とともに高まる傾向があることをまとめている。第三に、一般廃棄物処理に対する「ニーズ」や「選好」をまとめている。第四に、住民の「満足」や「協力」及びその規定因がライフステージとともに変化するの、ライフステージによって(1)ライフイベント、(2)ごみ管理の役割、(3)時間的、経済的余裕、(4)地域との繋がり、(5)社会への理解力や体力などの能力が異なることが影響していることをまとめている。そして、これらの得られた知見から、ライフステージ別に「満足」と「協力」を引き出す一般廃棄物処理施策を具体的に提案し、ソーシャル・マーケティングを活用したライフステージ・セグメンテーションの有効性を示している。

以上を要するに、本論文は、一般廃棄物処理における住民の満足と協力の両面を達成するための政策的アプローチとしてライフステージに着目する有効性を、複数のライフステージにおける満足と協力の関係性を統合的に分析しつつ明らかにしており、学術上貢献するところが大きい。よって、本論文は博士（学術）の学位論文として十分価値があるものと認められる。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。